



集合住宅に

「業務用生ごみ処理機」

長年使用していたダストボックスが廃止になり、有料ごみ袋を使用していた戸別収集が始まった東京・府中市。

我が集合住宅ではメーカーから無償貸与された(詳しくはごみと76号参照)“バクバク王”という愛称の生ごみ処理機がその名の通りバクバクと生ごみを食べ始めました。2ヶ月で約1600ℓが消化されてなくなりました。消滅式ですからごみ収集に生ごみを出しません。ごみ減量の原点です。

府中市住宅自治会「一栄会」 多田 眞



すっきりとしたごみ置き場

2月2日のごみ有料化開始日前後はやはり大変でした。開始日の前日までは「ごみを無料で捨てるられるのはこれで最後だ」という一種強迫観念にとらわれたかのように、皆がごみを捨てまくりました。よくもこんなに出るものだと感嘆する思いで、ダストボックスに付きっきりで分別のチェックをしなければなりません。

圧巻は千枚近くのリコーレコード盤でした。すばらしい収集品でクラシックから歌謡曲まで、名盤、珍盤ぞろいです。ご主人の秘藏品とお見受けしましたが、奥様の強いご意向で不燃ごみとなって消えてゆきました。

そうこうするうち、有料化開始日が過ぎ、今度はぴたりとごみが出なくなりました。不燃ごみは家中を総ざらいしたご家庭がほとんどなので当然出てきません。1週間以上ゼロの状態です。(1ヶ月経った今でもオレンジ色の燃やさないごみ専用袋は2つだけにとどまっています)

結局、スペースを1/3に縮小したごみ置き場は1ヶ月経っても満杯になることはなく、2トン弱の生ごみは機械の中で消滅し、容器包装プラスチックがぎゅうぎゅう詰めにされたピンクの袋だけが目立ちます。

府中市の容器包装プラスチックはDランクですが、今のところランクを上げるための市からの精細な指導と動機付けが無いので、分別違反を防ぐには我々市民だけでは難しい。お隣にある京王ストアがトレーだけは店頭回収していますが、惣菜用透明パックも早く回収するようにしてほしいものです。



さて、生ごみ処理機の実力は？

生ごみ処理機バクバク王を2ヶ月使った感想ですが、毎日バケツに入れておけば生ごみがなくなっていくので、運用はとても楽です。

騒音や臭いやコストなどマイナス要因も今のところはクレームがありません。投入される内容もあまり制限が無く、丸ごとのキャベツや大根がたまに混ざっても2時間のうちに細かくなって、



有料化後初の回収日のごみ

1区画がかつて使っていたダストボックス 1.2個分

1日のうちにほとんどが分解されていきます。

分解の遅いミカンの皮や長いままのねぎ等も2～3週間で小さくなったり細かい繊維質に分解しています。生ごみを入れてきたビニール袋や、調味料が入っていたビニールが時々混入しますが菌床交換時までそのままにしておくことにしました。ただそうだからと言って分解に時間のかかる大きなものやビニールなどの異物は電気の無駄になるので推奨できません。

*** 菌床の状態**



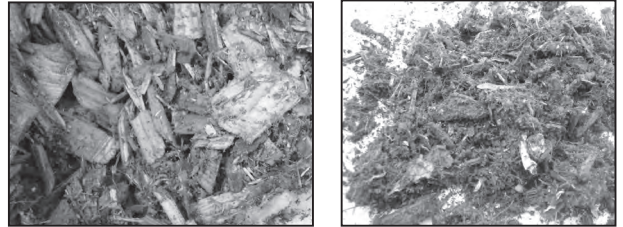
12月27日 ⇒ 3月10日
少し増加してきましたがこれ以上は増えせん

生ごみの投入量

前日に住民がバケツに入れた生ごみを、毎朝8時に当番が処理機に投入します。(タイトル写真)計量は経験から重量と容積の両方を測定しています。分解に関係するのは生ごみの体積ですが、自治体の排出量計測は重量によっているからです。

自治体の排出量表現は、生ごみの成分組成の違いによる平均的な比重値のほか水切りの程度による比重値の変動など不測要因などのため、乾ベースと湿ベース両方で表されていますが、乾ベースの計量は現場ではできないので、整合性はあまり考慮していません。

いずれにしろ、2ヶ月の間毎日20ℓ～30ℓの生ごみを投入し、分解しました。



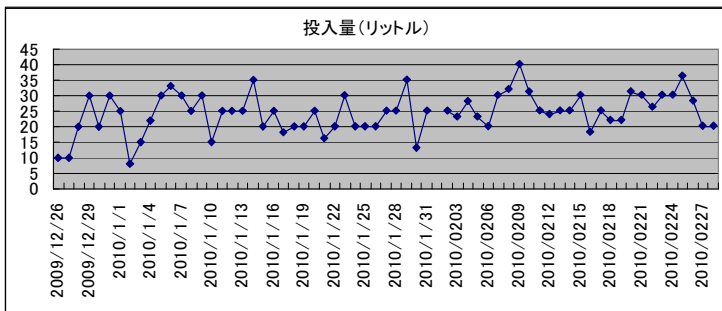
木のチップは小さくなり、生ごみの繊維質が目立ちます

バクバク玉を使い続けることはできそうか？

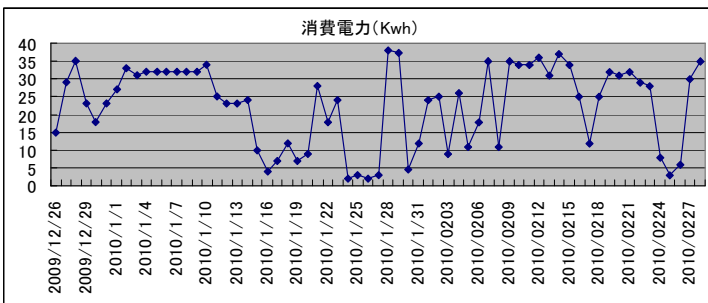
住民はみな楽しんで参加しています。市のごみ減量に自分たちも協力できるんだという具体的な意識が前向きな姿勢を生んでくれるようで、毎朝当番以外の人もできます。

一種の井戸端会議の場ともなってきた、個人的な問題も持ち込まれます。住民をまとめる自治会の機能に新しい手段が加わったという感じです。それらを含めて住民が共同作業をする場が作れた生ごみ処理機の設置は成功だったと感じています。

*** 2ヶ月間の生ごみ投入量**



*** 消費電力**



1月電気料金：7,600円 / 2月電気料金：8,300円

※ 基本料込み。冬場は電力使用量が多いので年間を通じての稼働データでの判断が必要です。

装置の評価

正直言って使い勝手、安全性などについて、厳しい産業用機械を扱ってきた私の目から見ると、十数社を調査しましたがどのメーカーもお粗末の一言です。M・I技研の装置も万全とは言えませんが、比較的こちらの言うことに耳を傾けてくれるので、改良点の提案をして品質管理を万全なものにしてもらえと思っています。設計理念としては「消滅型で堆肥も得られる仕組み」はこれからの方向を先取りしていると思います。